

---

**おめでとうございます。あなたが当選されました**

柳 大知

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おめでとうございます。あなたが当選されました

### 【Nコード】

N3557F

### 【作者名】

柳 大知

### 【あらすじ】

普通の主婦、ユキに届いた宅配便、品名は、「おめでとうございますあなたが当選されました」これが、ユキの運命を変えていく…

玄関のチャイムが鳴った。

主婦のユキは食器を洗うのを慌てて止め、手を雑に洗い流し玄関へ急ぐ。

「毎度！お届け物です」

「あつ！はい、ちょっと待って」

ドア越しに大声でそう叫ぶ、リビングに引き返しハンコを手に急いで玄関に戻る。

顔なじみの運送屋のおじさんと適当な会話をし、荷物を受け取った。

荷物はA4サイズくらいのダンボールでとても軽かった。

品物は…「おめでとうございます。あなたが当選されました」  
ん？なんだろう、この、いかにも詐欺広告のような品名は。

それに最近、懸賞に応募した覚えは無い。主人が応募したのだらうか？

あて名は「サカモト ユキ」私宛てだ。  
送り人は…書いてない…

リビングに戻るとソファーに座り、箱を目の前のテーブルに置き、しばし眺めた。

ん？危険な二オイ！もしかしたら爆弾かもしれない、ゆっくりと箱に耳を近づける。何も音はしなかった。

まあ、時限爆弾なんて最近じゃあんまり聞かないし…

そうよ、今じゃ細菌テロとか、爆弾なんてわざわざ作らなくても…。

ちょっと待て、と自分に言う。

だいたい、こんな普通の主婦に誰が何の目的でそんなものを送りつけるのか？

ついさっきまで、自分が考えていたことが、だんだん馬鹿らしくなり、ユキは箱を開けることにした。

どうせ、開けたら何かの勧誘とかの冊子みたいなのが、はいってるんでしょ…

ユキは箱を開けた。

箱の中には封筒があつた。そして、その封筒の中には、10数ページの冊子が入っていた。

やっぱり、詐欺関係の何かだ。ユキは少し落胆し、つまらなそうに、冊子を手に取った。表紙には、こう書いてある。

「あなたが決める2009年」

さて、何だろう、来年の干支をモチーフにした高額なお守りとかの広告だろうか？

だが、その中身は、高額商品の紹介や、宗教の勧誘などではなく、ユキの想像を遥かに超えたものだった。

## 1 ページ目

「あなたが決める2009年 基本要項」

例 サカモト ユキ

健康で幸せな日々

左から、名前、運氣、特別事項となります。

名前はあなたが、2009年の運勢を決める、その方の氏名です。次に、運氣とありますが、こちらは、  
、  
、  
、  
、  
×の5段

階で評価してください。

特別事項、こちらはその方に起こる、09年の重大な事をお書きください。

こちらは、スペースが限られていますので、多くは書けません、ご注意ください。

また、こちらの欄が空白ですと、その方は09年に存在しないこととなります。

その場合、その方は、09年を迎えることなく、亡くなりますので、特にご注意ください。

お名前を見てもピンとこない方、特に印象にない方などは、（特になし）と書くことをオススメします。

この冊子に、あなたが、書き込んだ、運気の評価と特別事項の内容により、その方の09年が決定いたします。お手数をおかけいたしますが、きちんとお考えの上、3日以内に全項目を埋め、こちらが用意した封筒に入れ、切手を貼らずに、郵便ポストへ投函下さい。

一体、誰のいたずらだろうか？

こんなものの存在など聞いたこと無いし、だいたい紙に書くだけで人間の運勢が決まるなんて、そんなことあるわけない。

馬鹿げてる、と思ったが、主婦のユキは暇だった。

少しだけ書いてみようかという気になり、ページをめくった。

ポストに投函しなければ誰にも見られることは無いだろうし…

だが、次のページをめくった瞬間から、ユキは何かに憑りつかれたかの様に、その冊子が求める作業を進めた。

### 3ページ 家族

1番目、私の父だ。父は、半年前から、病気で入院していた。もしも、これが本物で本当に効力があるなら…

そう思い書き込んだ。

(シンドウ タケオ 病気が治り、幸せな一年を過ごす)

次は母だ。母は、父の看病で疲れているだろうし、そういえば父が回復したら、父と海外旅行に行きたいと、この間、病室で言っていた。

(シンドウ マサコ シンドウ タケオと海外旅行に行く)

特別事項の欄は大きくなく、あまり長い文だと、入りきらない、母の欄が、旅行だけなのはどうかと思ったが、よく考えれば、父が幸せなのだから、当然母もそうであろう。

そのまま次の名前に目をやった。

シンドウ シンジ 弟だ、2年前、俳優になるとか言いだして、大学を退学した。

そのあと劇団に入ったので本気かな、と思ってたら、すぐに、あきらめ、今じゃ実家でゴロゴロとニート生活をしている。

(シンドウ シンジ 適職を見つけ、真面目に働く)

よし。これでいい。

家族3人について書いたところで止めようと思った。

確かに、今書いたことが現実になれば、それは素晴らしい事だ。

でも、ありえない、父は余命1年と宣告されているし、あの弟が急に真面目になるのも期待できない。ユキは左手のボールペンを置こうとした。しかし、手が動かない。そのまま、手が勝手に動き、次の空欄にペン先を置いた。次に名前があったのは、主人の両親や親戚などだった。

体が勝手に動いた。しかし、勝手に手が動いて、書き込む訳ではない、

ユキが書こうと思ったことだけ、書き込めた。だが、書くのを止めようとする、体が自分の意思では無い動きをした。

私じゃない力が、存在している…

もしかしたら、これは本当に効力があるのかもしれない…

そこから、一人ずつ、ユキは慎重に考え書き込んでいった。  
親戚のヨシオおじさんは、子供の頃、よくお小遣いをくれた。  
最近のおじさんの様子は知らなかったが、競馬好きだったのを思い出し、（競馬で大儲けする）と書き込んだ。

さらにページが進むと、学生時代の同級生の名前が出てきた。

ニシハラ エリコ、私の高校時代からの親友だ。エリコとは、大学も就職先も一緒に、私が職場の同僚と結婚するまでは、本当の姉妹のように、ほぼ毎日一緒に過ごしていた。

結婚してから、私が会社を辞めたのもあって、流石に会う機会は減った。でも、週に1度は必ず、エリコと長電話をする。

そういえば、エリコの最近の口癖は、「私も結婚したい」

好きな人はいるけど、絶対無理」とか言ってた。

そうだ、これを書けばいい。エリコもついに幸せになれる。

（ニシハラ エリコ 意中の人と結婚し、幸せに）

エリコのように、私がよく知る人物については、その人をもってどうしたら幸せか、それを考えて、思いついたものを書いた。でも、だんだんと名前では思い出せない人物が増えてきた。この辺りから、最初のページにあった（特になし）を多用した。

（特になし）が大半を占めるようになり、残りページもわずかになつた。

ちよつと待った！こいつ…

そのページには大学時代にバイト先で知り合った人達の名前が書かれていた。

タカハシ ケンイチ 私が初めて付き合った男だった。  
居酒屋のバイトをはじめたとき、色々と教えてくれたのが、こいつで、今思うと、（私が馬鹿だった）の一言。あんな奴に一目惚れ

してしまい、私は体を許した。

忘れもしない、隣で寝てたあいつは、寝言でアキコって別の女の名前を言った。

私がこっそり、あいつの携帯を見ると、アキコだけじゃなく、トモミにユリコにミキ…

ああゝ！もういいや、こんな奴。

（タカハシ ケンイチ × 最悪な一年 とにかく最悪）

ふゝ、でもこれが本当になるなら、最悪な一年って、相当ひどいだろうな…

次のページをめくった。そのページの名前の横すべてに（特になし）が書かれた。

本当に誰だか思い出せない。ひよっとすると、ずっと通ってた、美容院の美容師とか、名前 は知らないけど、お世話になった人も…

まあ…（特になし）なら問題ないでしょう。

そういえば、私と主人の名前だけ冊子には無い…

うゝん、さすがに、自分の運勢は変えられないのかな…

まあ、いいか、自分の未来がわかって面白くない？…かな？

すべての項目を埋め冊子を閉じた。すると、ペンを置けたし、その場を離れることが出来た。

不思議な時間であった。

翌日、指示通り、封筒に入れ、切手を貼らずに、ポストに投函した。

それから数ヶ月し、09年を迎えた。

ユキは、数ヶ月前の、あの冊子のことを、すでに忘れかけていた。それは、あの時間が夢のような、不思議な時間だったせいかも知れない。

ユキがその存在を思い出したのは、正月が終わった頃、母から父



の病気が奇跡的に回復に向かっているという電話を受けたときだった。

09年

父の病気は春先に、完治し、無事に退院した。

しばらくして、ヨシオおじさんが競馬で大儲けして海外旅行をプレゼントされたと、物凄く弾んだ声で母から電話あった。さらに、弟のシンジが、最近始めたバイト先で才能を認められ、契約社員になったと聞いた。

あの冊子に書いたこと、全部が、本当になった。

本物なら、家族の誰かが宝くじに当たるとか、もっと大きな事を書いておけば…

ちよっぴり損をした気分だ、でも、すべて私の望み通り、みんな幸せになったんだから、本当に不思議だけど、もしかしたら、神様のプレゼント？そんな、メルヘンチックなことを考える。だが、そう思うのも仕方ない、本当に不思議なことが起きているのである。

そういえば、あとは何を書いたっけ？ユキは書いたことを思い出す。

エリコ、そうだエリコ！

この流れならすべて本当になるだろう、きっとエリコも誰かと結婚する。

そうしたら、結婚式だ、よし今から洋服を用意しておこ。

しかし、エリコから何も変わった話はないまま、時は過ぎていった。

09年もあと1ヶ月しか残されていない、というのに、

まだ、エリコから結婚の話は聞けていない。

数ヶ月前から、電話で（結婚は、どうなの？しないの？）とか聞きすぎたのかも…

それが原因で、何かおかしくなって、エリコが結婚できなくなったのかも知れない、それならば、申し訳ないことをしたなあ。

エリコは結婚出来ない、私のせいかな…

そのまま、09年が、あと10日で終わりという日になった。

仕事を終え、夫が帰ってきた。

「おかえり」

「うん…」

どうも元気がない、いつもなら「あゝ腹減った」とか言って、冷蔵庫に向かって行き、缶ビールを開けるのに。

「どうかした？」

「いや…その…」

どうも歯切れが悪い、いつもと違う…

「大丈夫？疲れてるんじゃない？」

夫は、それは違う、というかのように、首を横に振った。

「その…ユキ、すまん、別れてくれないか…」

夫の口から想像もしていなかった。言葉が飛び出した。

私は、その場に崩れた…

「なんで、どうしたの…」

「実は、この年で、馬鹿みただけで、本気で好きな人が出来た。」

「…」

まさか…

「本当に最低だと思うけど…お前も、よく知ってる奴だ…」

「エ…エリコ？じゃないよね」

夫は若干驚いた様な顔をしたがすぐにこう言った。

「なんだ、バレてたのか…」

バレてなんてない。そんなの知らない…

でもエリコは今年結婚するって…（意中の人と）

嘘…、そんな…

その瞬間、私が結婚を報告した際にエリコが言った言葉が、蘇っ

てきた。

「嘘！部長と結婚するの！えゝ私も狙ってたのに、なんでもっと早く言ってくれなかったの？」

私は親友のエリコにも、サカモト部長との交際は秘密にしていた。でも、まさか、まだエリコが夫を想い続けていたなんて…

ゆっくり立ちあがり、放心状態で、すべての原因を生み出したあの場所に座り込んだ。

TVから、ニュースキャスターが原稿を読む声が聞こえてきた。

今日、午後6時頃、東京のA区の工事現場で、作業をしていた29歳の男性が、横転したトレーラーの下敷きになりました。男性はタカハシケンイチさんで、現在も意識不明とのことです。

どこかで聞いたことのある名前だった…

全部私が決めたこと…でもこんなことになるなんて。

（完）

## （後書き）

### 4 作目

10/26 ちよつと修正しました。

評価、コメントいただけると幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3557f/>

---

おめでとうございます。あなたが当選されました

2010年10月8日15時34分発行